

【平成30年度 授業改善推進プラン】

板橋区立高島第六小学校

【国語】

<p>■児童の状況</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・新出漢字を学ぶことに意欲的である。 ・順序立てて話すことや場に応じた適切な話し方に課題が見られる。 ・物語文では、人物の気持ちを読み取ることに意欲的に取り組む。 ・主語、述語、修飾語やこそあど言葉、仮名遣い等の言葉のきまりについての正しい理解と活用の定着に課題が見られる。
<p>■指導についての課題</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・聞くこと、話すことへの関心を高め、集中力を培う指導の在り方。 ・自分の考えを表現させることと、個に応じた指導の在り方。 ・漢字や表記や言葉のきまりの定着のさせ方。 ・伝え合い・学び合いに適したグループ学習の在り方。 ・学びを振り返るためのノート指導の在り方。
<p>■授業革新推進に向けての具体的な方策</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・学習のねらいを明確にした学習活動を展開する。 ・授業の終わりに学習事項の振り返りをし、学習内容の理解を深める。また、振り返りが十分できるようノート指導の充実を図る。 ・音読、漢字練習は毎日の学習として習慣付ける。わからない言葉は、辞書を引く習慣をつける。 ・言葉のきまりの習得のために、きめ細かな指導を継続的に行うとともに、正しい言語環境を創りあげる。 ・児童相互の考えを交流し、学び合う場を意図的、計画的に設定する。 ・他教科・領域との関連を図り、日常的に上手な聞き方、話し方の指導をする。 ・他教科・領域との関連を図り、日常的に文章を書く習慣を付けさせる。 ・おはなしやさん(保護者ボランティアによる読み聞かせ)や、朝読書、読書週間などの取り組みを通し、読書への関心を高めるとともに、読書が習慣化できるよう活動を継続的に行う。

【社会】

<p>■児童の状況</p>	<ul style="list-style-type: none">・見学や資料調べなどの体験的な学習には意欲をもって取り組み児童が多いが、調べたことや考えたことを新聞などにまとめる活動には、苦手意識をもつ児童も見られる。・一つの資料を読み取ることはできるが、複数の資料を関連付けながら考えを深めることには課題が見られる。
<p>■指導についての課題</p>	<ul style="list-style-type: none">・児童が主体的に学習に取り組むための課題提示の工夫。・児童に解決の見通しをもたせる学習展開の工夫。・資料を活用し、調べたことをまとめる活動への支援の方法。・資料の収集、活用方法の工夫。
<p>■授業革新推進に向けての具体的な方策</p>	<ul style="list-style-type: none">・学習のねらいを明確にした学習活動を展開する。・「課題設定→情報収集→分析・考察→課題解決→まとめ・新たな課題設定」といった、問題解決型の授業展開を工夫する。・児童同士が情報交換できる場を設定し、互いに学び合える学習を展開する。・社会科見学、外部講師による授業、映像資料の活用など、児童が興味をもって学習に取り組めるように工夫する。・学年や実態に応じて、様々な発表の仕方を経験させていく。・学習内容を振り返ることができるよう、ノート指導を充実する。また、それらを活用できる能力を養う。・電子黒板等、ICT機器の活用を図るとともに、その効果的活用法について研修を深める。

【算数】

<p>■児童の状況</p>	<ul style="list-style-type: none">・表現・処理、知識・理解については、多くの児童に基本的な学力の定着が見られる。一方で、学年が上がるにつれて、学力の二極化(個人差の広がり)が大きくなる傾向がある。・解決の場面では、数式や図などを利用して、自分の考えを持つことができるようになっている。しかし、問題から演算を決定し立式するための、問題把握の力に課題がある。・数学的な考え方や記述式の問題での正答率が低い。・課題を終了した児童が、まだ考えている児童にアドバイスをする姿が見られる。
<p>■指導についての課題</p>	<ul style="list-style-type: none">・習熟度別指導を効果的に行うために、指導形態や集団編成をどのように工夫するか。・数学的な考え方を培い、思考力・表現力を高めるために、問題解決学習をどのように取り入れていくか。・個人差に対応するために、どのような手立てをとるか。・学びの過程を振り返ることができるように、どのようにノート指導を進めていくか。
<p>■授業革新推進に向けての具体的な方策</p>	<ul style="list-style-type: none">・学習のねらいを明確にした学習活動を展開する。・「東京方式、習熟度別指導ガイドライン」に沿って、具体的な取組を策定し、計画的に指導に当たる。・自力解決を基本とした問題解決型の学習を進め、数式・図・表・グラフなどを活用した思考力・表現力の育成を図る。・既習の内容を組み合わせる新しい解法を考えたり、問題を読み解き、筋道を立てて考え、立式したりする学習を通して、数学的な考えを培う。・朝学習や毎日の家庭学習の積み重ねを大切にし、結果を認め励ましを続ける中で、学習の習慣化を図る。・少人数指導の良さを生かす学習形態、集団編成を工夫し、習熟度別指導を効果的に実施する。・ノートに「学習のねらい」「学習の過程」「学習の振り返り」を書くことを学校全体で統一し、指導する。・デジタル教科書、電子黒板など、ICT機器の活用を図り、児童の理解を高めたり、児童の考えを共有化したりして、基礎・基本の定着度を向上させる。

【理科】

<p>■児童の状況</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・自然や環境に対する興味があり、科学に関心をもつ児童が多い。 ・実験そのものには意欲的に取り組むが、なぜそのような結果になるのか、何を調べるための実験観察であるのか意識が低い。
<p>■指導についての課題</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・興味・関心を高め、持続させていくための事象提示の工夫。 ・探究する能力、考察する能力を伸ばすための学習展開の工夫。
<p>■授業革新推進に向けての具体的な方策</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・学習のめあてとふりかえりを明確にした学習活動を展開する。 ・観察・実験を積極的に行い、理科に対する興味・関心を高める。 ・「事象提示・課題設定→予想・仮説→検証方法の吟味→検証(観察・実験)→結果・結論→考察→まとめ・新たな課題設定」といった問題解決型の学習展開を繰り返し見通しをもって取り組んでいく。 ・ペア学習やグループ学習など児童同士が情報交換できる場を設定し、互いに学び合える学習を展開する。 ・ノート指導を充実し、基礎・基本の定着を図る。 ・学んだ内容を生活に生かそうとする態度を育てる。

【生活】

<p>■児童の状況</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・校庭や地域で自然に触れ、その変化を感じることができる。 ・公園探検・町探検に喜んで参加し、興味をもって地域の学習をすることができる。 ・様々な気付きを絵や文章で表現することが難しい児童が見られる。 ・第1、2学年でなかよし班を編成し、学校探検・手作りおもちゃ・昔からの遊び等で一緒に楽しく活動できる。
<p>■指導についての課題</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・児童一人一人の活動を見取る精度の向上と、支援方法の改善。 ・第1・2学年の交流学习で、児童がめあてを明確にもち、積極的に活動できるようにするための工夫。
<p>■授業革新推進に向けての具体的な方策</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・時節を考慮しながら直接体験の場を数多く設定し、児童の自立を促す学習展開を工夫する。 ・児童の気付きを褒め、認め、更に友達の上質な文章表現を紹介し、参考にできるよう支援する。 ・オリンピック・パラリンピック教育を通して、自国及び外国の伝統や文化を学ぶ機会をもち体験させ、自立への基礎を養う。 ・昔からの遊びなどで、楽しみながら探究できる活動を実施する。

【音楽】

<p>■ 児童の状況</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・音楽に対する興味・関心が高く、意欲的に音楽の授業に取り組むことができる児童が多い。 ・グループ活動は、学年で差があるため、話し合いに積極的に参加できるよう積み重ねる必要がある。 ・読譜力、リズムを読み取る力など、音楽の基礎・基本の学習を繰り返し積み重ねる必要がある。 ・歌唱については、明るくのびのびと声を出しているが、呼吸法や発声法の基礎基本を身に付けることが必要である。
<p>■ 指導についての課題</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・小グループで練習したり、互いに教え合ったりする時間を取る。 ・苦手な児童への個別指導が必要である。 ・歌唱の活動では自然な発声でのびのびと歌えるように指導する。 ・自分の思いをもって表現することへの指導が必要である。
<p>■ 授業革新推進に向けての具体的な方策</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・児童それぞれの技能に合わせた指導ができるよう、明確な課題設定と適切な評価をし、苦手意識をもたないように指導法を工夫する。 ・楽譜を見て演奏することに慣れるため、日常的に短いリズム練習や読譜を積み重ねる。 ・グループ活動を様々な人数で取り組ませ、協働学習の場を多くつくる。 ・音楽の要素に結びつけられるような表現や鑑賞ができるようにするために、曲について深く考える時間を設定して、より質の高い表現を目指す。掲示も分かりやすく工夫し、楽曲の魅力について言葉で説明ができるようにする。

【図画工作】

<p>■ 児童の状況</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・表したいことを見付け、絵を描いたり、工作をしたりと、表現活動を楽しんでいる。 ・描くことに対して苦手意識をもつ児童がみられる。 ・基本的な用具を正しく安全に使用することができるようになってきた。いろいろな材料に触れる経験が不足している児童がいる。
<p>■ 指導についての課題</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・自らの考えや思いを造形表現につなげるための工夫。 ・児童が試行錯誤しながら、多様な表現方法を模索できる時間を確保する。 ・個々に応じたきめ細かい指導・助言を行いながら、製作に時間がかかる児童や集中力が途切れてしまう児童への支援方法。 ・基礎的な用具や材料の扱い方に慣れ、授業の基本的なルールを徹底していくこと。
<p>■ 授業革新推進に向けての具体的な方策</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・参考作品を提示し、具体的なイメージをつかみやすくする。 ・児童が描いたり作ったりしたものの良さを認め、共感することを大切に指導する。 ・一人一人の実態を把握し、児童が豊かに発想を広げて製作できるよう、表現の幅をもたせた題材を多く取り入れるようにする。 ・いろいろな種類の材料に触れる機会を増やし、道具の便利さを体験させる。 ・作品を見て感じたことを、書いたり伝えたりする活動を取り入れる。

【体育】

<p>■児童の状況</p>	<ul style="list-style-type: none">・体を動かす活動を好む児童が多く、授業への取り組みは意欲的であるが、運動能力・体力、運動経験の個人差が非常に大きく、個人的に得意な運動、そうでない運動に対する取り組み方に大きな差がある。・体力テストでは全般的に都や区との比較において低い傾向がある。特に、投力、持久力・耐性が低い。
<p>■指導についての課題</p>	<ul style="list-style-type: none">・低学年のうちからさまざまな体の動きを取り込んだ授業を展開し、運動することの楽しさやできる喜びを味わわせ、どんな運動に対しても自ら質を高めたり、記録を伸ばそうとしたりする意欲を育む。・苦手意識が強かったり、運動そのものを嫌がったりする児童に対する支援の仕方など、個人差への対応が必要である。
<p>■授業革新推進に向けての具体的な方策</p>	<ul style="list-style-type: none">・低学年のうちから、中学年・高学年につながるような運動や遊びを多く経験させる。・個人練習だけでなく、低学年では一緒に、中学年では励まし合い、高学年では高め合いといった関わり合い、学び合いを含めた授業づくりを行う。・学習カードで動きのポイントや自分の課題を把握し、練習後に振り返らせ、自己の課題達成や次時への課題をもって取り組ませるとともに、課題達成のための具体的なアドバイスをを行う。・運動の特性を踏まえた体育指導研修の機会を作り、教員の授業力の向上に努める。・体力テストの実施により、具体的な数値を出すことで児童の実態を把握し、体力向上に向けた取り組み方を工夫できるようにする。

【家庭】

<p>■児童の状況</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 家庭の生活や仕事に関心がある児童が多いが、調理や裁縫の経験に差が見られ、作業や片付けに時間がかかる児童もいる。 ・ ものを作る楽しさを感じながら調理したり、布でものを作ったりといった実習を好み、意欲的に取り組むことができる。
<p>■指導についての課題</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 作業の進め方や道具の使い方、食生活や住まい方についての基礎的な理解を深め、必要な技能を身に付けさせていく。 ・ 児童が自分自身で生活を担うという意識を育てていく。 ・ 児童が興味をもちながら、進んで行える実習を心がける。
<p>■授業革新推進に向けての具体的な方策</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・綿密な学習の計画を立てたり、実習の準備を支援したりと、学習が円滑に進められるように配慮する。 ・学習資料やワークシートを工夫し、一人一人がめあてを明確にして学習できるようにする。 ・調理実習や裁縫等の作業では、常にグループでの役割分担を考え、協力したりアドバイスしあったりしながら行えるようにする。 ・家庭と協力して、学習したことを家庭でも実践するよう働きかける。

【総合的な学習の時間】

<p>■児童の状況</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・学校内の身近な自然環境をテーマとした学習に、興味・関心をもって楽しみながら取り組んでいる。 ・インターネットを利用し、調べ学習を行っている。
<p>■指導についての課題</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・自ら課題をもち追求していく児童を育成するための手立て。 ・他の教科と関連付けた学習の展開や必要な資料等の準備。
<p>■授業革新推進に向けての具体的な方策</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・こちらから課題を提示してしまうのではなく、テーマや題材から児童が自ら課題をもてるよう工夫する。 ・調べ学習に必要な資料は、学校の図書室の利用だけではなく区の図書館等を利用して様々な資料を用意する。また、インターネットを活用させる際には、教師が事前にサイトを精選し、児童にとって必要な情報が簡単に入手できるようにしておく。 ・自然体験やものづくり、発表や討論などの活動を取り入れる。 ・総合の学習で学んだことを他の教科で生かせるように、また他の教科で学んだことを総合に生かせるように、体験的な学習を増やしていく。 ・外部講師やボランティアを活用し、体験的な活動の機会をもつ。 ・電子黒板等ICT機器の活用により、効果的な発表・表現ができるよう工夫する。

【外国語活動】

<p>■児童の状況</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・外国語、外国文化についての興味・関心が高い。 ・コミュニケーションを楽しみながら、活動に取り組んでいる。 ・低学年のうちには積極的に声を出し、会話を楽しんでいる児童が多いが、年齢が上がるとともに消極的になってしまう場合がある。 ・高学年は、文字に興味をもつ児童が多い。 ・英語塾に通っている児童が年々増えてきている。
<p>■指導についての課題</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ALTと担任とが協力・連携し合い、授業を進める。 ・楽しみながら外国語に親しませるための工夫をする。 ・年間指導計画の見直し、指導記録等の引き継ぎを行う。
<p>■授業革新推進に向けての具体的な方策</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・担任は、ALTと十分に連携し、クラスルームイングリッシュを使ったり、例示をしたりし、児童に英語を楽しんで用いている姿を見せる。 ・Let's Try!、Hi, Friends!、Welcome to Tokyo、フラッシュカード等の活用により、楽しみながら英語に親しめるようにする。 ・楽しみながら活動することで、自然に英語に親しめるようにする。 ・褒め言葉を効果的に使い、児童が自信をもって活動に取り組めるようにする。 ・使用する教材や掲示物を、学校全体で共有していく。 ・CDやデジタル教材を有効に活用する。 ・電子黒板を活用し、分かりやすく楽しい授業を実践する。 ・東京オリンピック・パラリンピックに関連した題材を扱い、外国の言語や文化に対する興味を喚起するような活動計画をたてる。 ・高学年では、文字を意識しできるような活動を取り入れ、読み書きも無理のない範囲で行う。 ・中学年では、文字と音声が自然と結びつくような活動を行う。

○言語活動の充実

・言語活動を充実させ、子どもたちの思考力、判断力、表現力を育むために、次のような活動を学習の中に取り入れて行く。

- (1) 体験から感じ取ったことを表現する。
- (2) 事実を正確に理解し伝達する。
- (3) 概念・法則・意図などを解釈し、説明したり活用したりする。
- (4) 情報を分析・評価し、論述する。
- (5) 課題について構想を立て実践し、評価・改善する。
- (6) 互いの考えを伝え合うことにより、自らの考えを発展させる。